

京都腎臓医会 副会長

京都府立医科大学 腎臓内科 学内講師 草場哲郎先生



この度、京都腎臓医会八田新会長の就任に伴い副会長を拝命いたしました京都府立医科大学腎臓内科の草場哲郎です。私は京都腎臓医会が発足した際に長谷川剛二先生をリーダーとするDKDワーキンググループの一員にご指名

いただき、2020年からはその後を継ぎリーダーを務めておりました。今回、副会長に就任するにあたり、ひととご挨拶申し上げます。

腎臓病診療はこの10年の間にSGLT2阻害薬を始めとした薬物の登場により大きく進歩し、腎機能低下を食い止めることができる時代になりました。そして透析導入患者数は高齢化社会にもかかわらずやや減少傾向に転じており、これは腎臓病診療に携わる多くの医療関係者の努力の賜物と考えられます。但し、その結果として透析に至らないCKDの患者数は増加し、多くの疾患を併存することも多いことから包括的な対応の必要性が高まっております。

腎病理でご高名な信州大学病理学の重松秀一先生が『腎臓は身体の鏡』とおっしゃられたように、腎臓病の診療では、内分泌代謝疾患、自己免疫疾患、心血管疾患、悪性腫瘍、他多くの領域の疾患の進展、治療に大きく影響するため、領域横断的な対応が求められます。また京都府は南部に腎臓専門医が多いものの、北部にはいまだ十分とは言えず、腎臓病診療の地域の均てん化も重要な課題と考えます。これらの課題を解決するためには、診療科、所属組織、地域横断的な取り組みを実現する必要があると思われます。

京都腎臓医会は、様々な背景を有する会員と、様々な地域、規模の医療機関が『腎臓』という一つの共通言語によりつながっている組織です。この強みを生かして、八田会長のご指導のもと、多くの会員の先生方と協力しながら、京都の腎臓医療をよりよく発展するために、私も微力ながら尽力したいと思います。ご指導、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

京都第二赤十字病院 腎臓内科 部長 塩津弥生先生



この度、京都腎臓医会副会長を拝命いたしました、京都第二赤十字病院腎臓内科の塩津弥生と申します。京都腎臓医会には、腎臓内科や糖尿病内科をはじめ、さまざまご専門分野の先生方が所属されております。ご高名な先生方や大先輩の先生方も多くおられる中で、このような大役を拝命し、身の引き締まる思いであります。

私が専門として腎臓内科を選択した理由の一つは、腎疾患の診療領域が非常に幅広い点にあります。全身疾患の臓器症状の一つとして腎症状が出現することや、さまざまな疾患の合併症、さらには薬剤の副作用として腎機能が低下することも少なくなく、他科との連携が不可欠です。また、国民病ともいえる慢性腎臓病の診療においては、地域の先生方と腎臓専門医との密接な連携が重要であると考えております。

これまで腎臓医会では、難病ワーキンググループやCKD教育入院ワーキンググループにも所属し、各分野の先生方と交流する機会をいただきました。これらの活動を通じて、多くのことを学ばせていただき、自身の診療においても非常に貴重な経験となっております。腎疾患の診療には「つながり」や「連携」が極めて重要であり、そのためには京都腎臓医会が果たす役割は大きいものと考えております。微力ではございますが、今後は副会長として、医会の活動に尽力してまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

